

**重要文化財として現存する
山陰初の近代水道施設**

鳥取市国府町美歎の静かな山間に、レトロな建物と四角い池が並ぶ公園のような広場がある。旧美歎水源地道施設。かつて鳥取の上水道は、ここから届けられていた。

竣工は1915（大正4）年。鳥取市民に良質な水を安定的に供給する目的で計画され、立地条件などから旧宇倍野村の美歎が設置場所に選ばれた。外国人技師に頼るのが通例だった時代に日本人技師が設計。国産水道施設の先駆的存在であり、山陰初の近代水道施設となった。

しかし完成から3年後の1918（大正7）年、過去にないほど猛烈な台風が襲う。土製のダムは決壊し、下流にある美歎集落の15棟が飲み込まれ、8人の尊い命が奪われた。

復旧工事は翌年から始まり、貯水ダムは土製からコンクリート製に。同じ悲劇を二度と繰り返さないという強い信念のもとで再建され、1922（大正11）年に給



水害で決壊した土製のダムを粗石張・重力式コンクリート造で再建設。かつては上部の広い切り込みから水が流れ落ち、「美歎の大瀑布」と呼ばれた

る。毎年11月に催す市文化財課主催の公開イベントでは、馬に乗って敷地内を巡るツアーが大人気。野菜や餅、菓子など美歎の特産品を目当てに訪ねる人も多い。

そして冬は、静かに雪に眠る姿が凜とした美しさを醸す。

美歎水源地道保存会会長の澤田さんは、「ここは別世界のような、大正浪漫を味わえる場所。桜やホタルを見に来られたら、ぜひ歴史的背景、どういう施設かを知ってほしい」と願う。敷地内にはろ過池の砂を洗う「洗砂場」を模した木造のガイダンス施設があり、水道施設の歴史と特性を映像やパネルで解説している。水源地を訪ねたらぜひ覗いてみたい、おすすめの場所だ。

**近代化を物語る文化財
その価値を残すために**

日ごろから散歩をする人や親子連れが足を運び、市民に親しまれるようになった旧美歎水源地道施設。このような再生が叶った背景には、地元住民の地道な努力がある。

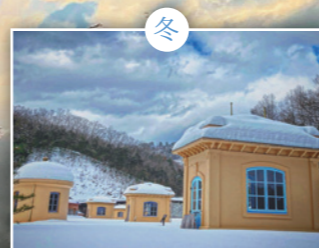
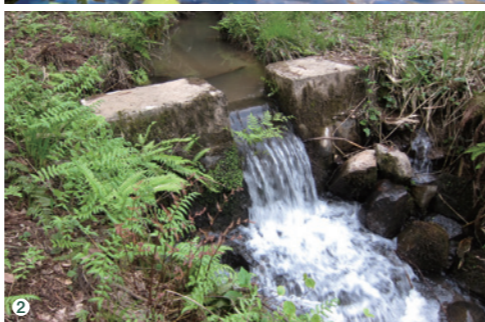
「幼いころにはダムや、近くの広場でよく遊びましたね」と澤田さん。大切な思い出の場所、それも大正時代に最新鋭でつくられた施設を保存・活用しようと、20年ほど前に美歎集落内で活用検討委員会が立ち上がった。市や県に保存や整備を訴え、重要文化財指定という形で活動は実を結んだ。鳥取市文化財課の岡垣頼和さんは、「水

巻頭特集 旧美歎水源地道施設

**水面に映る
自然と浪漫**

かつて60年余にわたって清廉な水を送り続けた、旧美歎水源地道施設。いたましい自然災害を経て再建された。復興から今年で100周年を迎える。かつての鳥取を支えた同施設はいま、どのような佇まいで残っているのだろうか。

ろ過と、水を送り出すバルブ装置を覆う「制水井上屋（せいすいせいうわや）」。ダムから水をろ過池に引き、微生物と砂を使って浄化する「緩速ろ過」方式で浄化する。建物の大正時代の意匠にも注目を



冬には上屋が深い雪に包まれる



秋にはバルブが黄金色になる



夏には美歎川をゲンジボタルが舞う

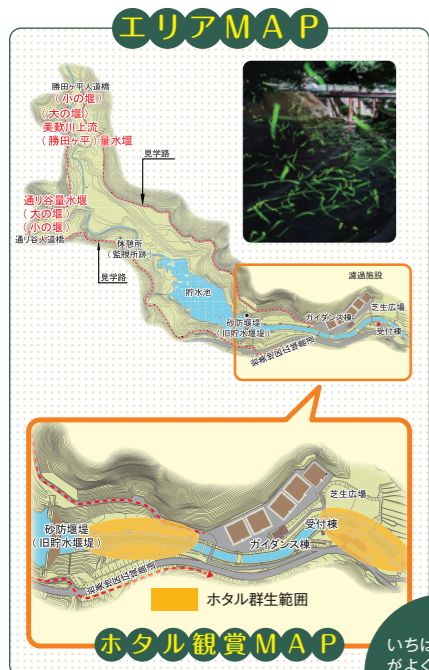


春には約80本の桜が咲く



いちばんホタルがよく見えるのは、駐車場の辺りですよ

美歎水源地道保存会会長
澤田勝さん



鳥取市教育委員会事務局
文化財課主任 建築技師
岡垣頼和さん

①貯水堰堤は水源地道廃止後、砂防ダムに生まれ変わった。壁面に放水口が取り付けられたためいまは「大瀑布」とはならないが、100年の堂々とした姿を見られる。②ダムの上流にある4つの取水堰堤のうち「勝田ヶ平量水堰・小の堰」。この小さな流れが鳥取の工業化を支えた。③秋の公開イベントでは「NPO法人ハーモニカレッジ」の馬が登場。馬が現役の交通手段だった大正時代に思いを馳せて乗ってみては。④駐車場のそばにある「量水器室」内に水源地道が送り出す水の量を計る「ベンチューリメーター」があり、1978年3月27日の稼働最終日の数字がいまも残されている。⑤美歎水源地道の歴史や特徴を展示するガイダンス施設。建物がかつての洗砂場を模している

information

旧美歎水源地道施設
鳥取市国府町美歎689-2他

<ホタル観賞ウィークin旧美歎水源地道2022> 観賞期間:6/11(土)~26(日)
復興100周年を記念して、期間中はガイダンス施設を「ナイトミュージアム」として夜間開館

<ホタル観賞ツアー> 6/11(土) 19:30~21:00 ホタルの生態を学びながら、実際に飛び姿を観察しよう。*申込不要、雨天時翌日開催(12日が雨天の場合は中止)
問い合わせ:鳥取市教育委員会文化財課 TEL0857-30-8422



右)「制水井上屋」の壁は、現代にはない「鉄骨鉄網モルタル造」の工法のままに修復。窓枠のベンキも忠実に再現した。左)4~11月の間、保存会の会員が常駐し、草刈りや河川清掃などの清掃美化作業、ガイドなどを行う

水を再開した。

美歎水源地の水は市民の飲料水としてだけでなく、工場や蒸気機関車にも給水され、鳥取の近代化を牽引した。1952年に発生した鳥取大火でも消火用に活躍したと、記録に残っている。

水の需要増加に伴う新施設建設により、美歎水源地道は1978年、約60年にわたる役目を終えた。貯水ダムは地元の強い要望で取り壊しを逃れて砂防ダムに生まれ変わり、第2の人生を歩み始める。2007年には、水道施設は国の近代化遺産として重要文化財に指定された。

**四季のイベントでにぎわう
市民の憩いの場所に**

現在、水道施設は10年に及ぶ修復・整備事業を経て往時の姿を甦らせている。劣化が激しかった建物は、当時の技法と材料を極力再現して修復。敷地も整備し、芝と玉砂利が足もとを覆う。

春は約80本の桜とレトロな建物とのコラボレーションが見事だ。「お花見ウィーク」開催中はライトアップし、今年は復興100周年を記念した抹茶のふるまいもあって、昼夜あわせて5千人が桜を楽しんだ。

夏は、施設の中を流れる美歎川を蛍が舞う。今年は6月11日〜26日に「ホタル観賞ウィーク」を予定し、初日には識者を招いたホタル講座や音楽会を開催する計画だ。秋は山が赤く色づき、イチヨウの大木が黄金色の絨毯を広げ

道施設が国産化されたことへの施設が、これだけ当時の姿をとめているのは珍しい。この施設から日本の近代化、工業化のようすが見られるのです」と価値を語る。文化財指定後、美歎集落は美歎水源地道保存会を設立し、維持管理や施設のガイド、イベント開催などに努めている。

澤田さんは「小学校などの社会科見学の手引も行っていきます。子どもをはじめ、より多くの方に『素敵な場所だなあ』と楽しんでほしい、歴史を伝えられるよう活動していきたい」と未来を望む。

中心市街地から車で15分程度、歴史と豊かな自然を五感で満喫できる旧美歎水源地道施設は、いつでも何度行っても気持ちがいい。